

宝に食われる

宮本百合子

青空文庫

この間、ほんの四五日であつたが奈良に行つた。そして、短い時間に慾張つて処々の寺にあるよい仏像などを見た。奈良には、十九ばかりの頃、中学三年生の弟と春休みに数日暮したことがあつた。その時は大阪にいた親戚により、大阪から今はもう廃業してしまつた対山楼に行つた。梅林があり、白梅が真盛りで部屋へ薰香が漲つていたのをよく覚えている。何にしろ年少な姉弟ぎりの旅だったので、収穫はから貧弱であつた。博物館で僅の仏像を観た位のものであつた。然し、足にまかせ、あの暢やかなスロー卜と、楠の大樹と、多分馬酔木あせびというのだろう、白い、房々した、振つたら珊瑚と変に鳴りそうな鈴形小花をつけた矮樹の繁みとで

独特な美に満ちている公園を飽かず歩き廻った。三月末から四月五六日頃にかけての奈良の自然の快よさ！ 桜時分だから東大寺の、錢を払つては一撞きつかせる焚鐘が殆ど一日じゅう鳴りづめだ。春日神社の囲りなど夥しい神鹿の姿も雜踏にまぎれるばかりの人出であつた。が、妙なもので、素通りの見物人が通る大路はきつちり定つてゐるものだ。その庭の白く乾いた道の上こそ、草履の端から立つ埃がむつとしておれ、たつた一步、例えまあ三月堂から男山八幡へ行く道、三笠山へ出る道を右にそれで草原に出て見る、そこで人影はもう余程疎らだ。もう一寸、麗らかな太陽の下で情感ある蔭を重ねている矮樹を縫つて更に奥へと進んで見る。——私は不意に自分を囲んだあの静けさ、諧調ある自然の

沈黙に打れ感動した心持を今だに忘られない。私は、その時ひとりでに六尺ばかりに延びた馬酔木がこんもり左右に連り生え、云うに云われぬ優しい並木路で区切られた草原の一隅を見つけ出した。そこに腰を下し、私は恍惚として空想に耽つた。

今度の旅行では、永年心に印象され憧れの胚種となつていたそれ等自然の感銘の上に幾分豊富な芸術的知識を加え得た。精神の活々する実に楽しい旅であつた。けれども、寺々を歩いているうちに、時々私の心持を陰気にさせる一つのものがあつた。それは、仏像拝観に訪ねた私たちを案内したりもてなしたりしてくれる僧侶が、大概ごく若いのになるべ大人ぶり、それも一人前の坊さんぶるのではない軽薄な美術批評家ぶつて、小癩な口を利き立てる

淋しさである。やつと十九か二十ぐらいの、修業ざかりと思われる若僧が、衣の袖を翻して心得顔に、

「結構なものですな。まるでギリシア彫刻を見るようです、大理石の味がある」

などと云う時、ははんと寥しいのは、私の性根がひねくれているのだろうか？ 奈良の僧侶の多くの者は、祖先の遺産が沢山すぎ立派すぎて或る点スパイロイルされていると私は思った。種々な人間が、天平、弘仁の造形美術の傑作を研究し、観賞しに奈良を訪ねる。本当の芸術愛好家なら、仏教の信仰をそのものとして奉持しなくとも、美から来る靈的欽仰を仏像とその作者とに対して抱かずにはおられない。彼等は感歎し、讃美する。端厳微妙な顔面の

表情や、腕、脚の靈活な線について。よき芸術にふれた歓喜を、彼等は各々多くの場合専門語で表現するに違いない。そう本もの美術観賞家とも生れついていまい若者は、傍でそれ等テクニカル・タームの数々を耳に浚い込む。文学青年という熟語があれば、奈良の若僧中には、美術青年がある。無礼を顧ずいえば、彼等は僧として、高邁な信仰を得ようと/or>する熱意も失つていると同時に、芸術的美に沈潜することによつて、更に純一な信心に甦るだけの強大な直観も持つていないようだ。自分達の本堂に在す仏を拝んでは、次の瞬間に冷静な美術批評家ぶつて見、それを些か誇とする——私の穿ちすぎた感じ方かも知れないが、そこに何とも云えず佗びしいものがある。本氣で修業する僧と、外来の者を案内し

たり何かする事務員とは別々な方が自然だ。京都では、この点、もつと俗悪に病的になり下っている。悲しいが憎めない奈良の若者の稚氣ある口真似と比較にならない、憎々しさ、粗暴さが、見物人対手の寺僧にある。彼等は、毎日毎日いつ尽きるとも知れない見物人と、飽々する説明の暗誦と、同じ変化ない宝物どもの行列とに食傷しきつてゐるらしい。不感症にかかつてゐるようだ。

悠^{ゆつ}くり心静かに一枚の絵でも味おうと思えば、我々はこれ等の宝物に食われかけている不幸な人々にどいて貰い、放つて貰つて、志を果さなければならないのだ。

〔一九二五年七月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十七卷」新日本出版社

1981（昭和56）年3月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第十五卷」河出書房

1953（昭和28）年1月発行

初出：「文芸日本」

1925（大正14）年7月号

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2003年9月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

宝に食われる

宮本百合子

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>